

Title	漁業における経済システムの変化に関する人類学的研究 : ベトナムの観光都市サムソン市の事例を中心に
Author(s)	李, 俊遠
Citation	大阪大学, 2010, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/57726
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	李 俊 遠 イ ジュン ウォン
博士の専攻分野の名称	博士（人間科学）
学位記番号	第 23513 号
学位授与年月日	平成22年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 人間科学研究科人間科学専攻
学位論文名	漁業における経済システムの変化に関する人類学的研究—ベトナムの観光都市サムソン市の事例を中心に
論文審査委員	(主査) 教授 中川 敏 (副査) 教授 春日 直樹 教授 栗本 英世 講師 森田 敦郎

論文内容の要旨

本研究はベトナムの漁業における経済的システムの変化を人類学的観点から考察するものであり、二つの目的を持っている。一つはベトナムの漁民と漁業に関する精密な民族誌として、漁民と商人の社会的・経済的生活を明らかにすることである。もう一つは、経済人類学的立場から、市場経済における交換の当事者間の関係と、交換の当事者と交換の対象との関係によって作られる交換の構造を明らかにすることである。

本論文は7章と結論で構成されており、各章の構成は以下の通りである。

1章では、市場経済において社会的関係が人々の経済活動に影響を与え、交換の当事者間の関係と、交換の当事者と交換の対象との関係によって交換の形式と性格が決められることを明らかにする。新古典派経済学と従来の経済人類学において、市場経済は経済的要素のみによって形成されるとみなされていた。しかし、現実の市場経済においては、人々が持っている経済的資本・社会的関係・交換の対象に関する情報と知識の差が交換過程に影響を与えている。より多くの経済的資本をもち、広い社会的関係を利用し交換の対象に関する様々な情報と知識を持っている者は交換の過程で有利な立場にたつ。そうではない者は、価格の決定過程で影響力を失い疎外されるのである。

2章では、調査地であるサムソン市チョンソン区の概観を示す。第一に、サムソン市の自然環境について、第二に、社会的・経済的背景としてベトナムの政府のドイモイ経済政策の導入過程について、第三に、サムソン市の観光業の発展過程について考察する。1986年のベトナム政府のドイモイ経済政策によって市場経済が導入され、チョンソン区の人々は市場経済の論理に従い経済活動を行なうようになった。そして、サムソン市は2007年観光100周年を迎えており、今日では新鮮な海産物が重要な観光商品になっている。観光業の発展によって、漁民の生産方式と海産物の交換システムに変化が生じている。

3章では、漁民の経済的活動と社会的関係に焦点を当てて考察し、価値の生産過程におけ

る漁民と自然・環境との関係と、漁民の社会的関係を明らかにする。チョンソン区の漁民の経済的活動は、家族を中心に行なわれている。漁民は、チュイエンナンという船と網を使用して海産物を獲っており、季節ごとに操業方式が異なる。漁民は獲った魚を商人、カニなどの海産物を一次代理店に販売している。漁民にとって、魚の販売は慣れた経済活動であり、日常化している。そのため、漁民は市場経済の論理に慣れている。

4章では、商人の経済活動に焦点を当てて、商人の商売活動の特徴と商人の間での競争と協力関係を明らかにする。チョンソン区の商人は、海岸で魚を購入し市場で販売しており、海岸と市場の価格の差異によって利益を得ている。漁民と商人は兄弟と親戚関係で結ばれているが、購入は取引によって行われており、お互いに利益を追求している。商人は購入をめぐってはお互いに競争しており、有利な立場に立つために、グループを形成し商売活動を行なう。一方で、商人は共同購入・分け合いを行うことで、漁民との取引価格を低くしようとお互いに協力するのである。

5章では、漁民のもう一つの交換の相手である代理店に焦点を当てて、漁民と代理店との交換関係を明らかにする。代理店は、漁民より多くの経済的資本と広い社会的関係を利用し、交換する海産物の市場価格と販売先の情報を持っている。代理店はそれを利用し漁民より有利な立場で交換を行なう。漁民は決められた代理店に販売し、価格は代理店によって一方的に決められる。漁民は「社会的クエン関係」と「経済的クエン関係」という「取引外」の要素を動員し、決められた代理店との長期間の取引関係を説明している。実際には漁民と代理店は経済的目的でお互いに長期間の経済的交換関係を結んでいる。経済的利益の重視とともに、代理店による一方的価格決定によって、漁民は価格決定過程から疎外される。漁民は価格決定過程での影響力と自分の生産物に対する統制力を失う。このような交換関係を本論文では「縦の交換関係」と呼ぶ。

6章では、漁民が行う二つの商業活動の分析を通じて、商業活動に影響を与える経済的資本と社会的関係、商業活動の意味を明らかにする。多くの漁民は2月から4月初めまで魚を購入している（春の「バンルオン」）。一次代理店と同業関係にある漁民あるいは二次代理店に直接販売できるルートを持っている漁民だけが4月終わりから8月半ばまでカニを購入する。漁民は二つの商業活動に関して異なる説明を行なう。漁民は、春の「バンルオン」は漁業の延長線上にあるが、夏のカニの購入は漁民の「本業」ではないとみなす。夏のカニの購入はカニの価格・販売先と購入先の情報を持っている漁民だけができる活動である。彼らは代理店とつながりを持っている人々である。一方で、漁民であれば、だれでも魚の価格・購入先と販売先の情報を持っているため、春の「バンルオン」を行うことができる。

7章では、海岸での漁民と商人の交換過程で現れる「市場に行く」という表現、バン・コアという販売方式、パットという支払い方式の分析を通じて、漁民と商人の交換関係を明らかにする。漁民と商人は似た経済的資本を持っており、魚の質と価格の情報と、販売先と購入先の情報を共有している。漁民と商人は一度限りの交換関係であり、相手がつねに変わる。漁民は商人との交換において、自己利益を強調する。そのため、交換の関係は不安定なように見える。一方で、漁民と商人はバン・コアのようにお互いに助け合ったり、パットのように漁民が商人の活動を手伝ったりする。パットは、漁民が魚の流通に対して責任を持っており、魚の流通過程において漁民と商人が協力関係にあることを表す。漁民と商人との関係において、漁民は利益の追求を強調するが、実際には漁民と商人の交換関係には社会的関係が大きな影響を与えており、人格的な交換が行われる。価格の決定過程

で両者は影響を与え合う。そのため、交換の過程で疎外が生じない。この交換方式を本論文では「横の交換関係」と呼ぶ。

結論では、漁民と代理店との交換関係である「縦の交換関係」と、漁民と商人の交換関係である「横の交換関係」を比較する。ボラニーのような従来の経済人類学の主張と異なっており、市場経済において必ず非人格的な交換と疎外が生じるのではなく、社会的関係によって必ず人格的な交換が生まれ、疎外が生じないのではない。表面的に見ると、チョンソン区の漁民と代理店は社会的関係によって結ばれているが、実際には疎外が生じている。表面的に見ると、漁民と商人の交換関係では自己利益が強調され、社会的関係は影響を与えないように見えるが、実際には社会的関係が大きな影響を与えている。漁民と商人はお互いの経済的利益を保証しており、共生の関係にある。

論文審査の結果の要旨

本論文は、申請者の2年間のフィールドワークに基づく、詳細なベトナム漁村の研究です。

本論文の中で、申請者李さんは、人類学そして経済学の中で、常識として扱われてきた、人格的な交換としての伝統社会におけるモラルエコノミーと、非人格的な交換としての近代社会における市場経済あるいは資本主義経済という対比に疑義を提出します。

申請者の調査したベトナムの漁村、サムソン市のチョンソン区は、資本主義経済に大きく巻き込まれた観光地の中にあります。サムソンの漁村の人々は、しかしながら、完全に非人格的な市場経済に生きているわけではありません。といて、彼女らが伝統的な経済ににいるというわけでもありません。サムソンの人々は、第一に交換する人々との関係、そして第二に交換する対象に対する知識という二つの軸に基づいて、あるときは、人格的な交換を、あるときは非人格的な交換を行なっているのです。

李さんは膨大な民族誌的事実を積み重ねながら、この明確な結論へと、読者を導きます。

焦点があてられるのは第一に漁民と商人の間の取引、第二に漁民と代理店の間の取引です。

漁民と商人のあいだでは、両者のあいだにもっている資本、情報等にはば差がありません。そのような場合、お互いが自己利益を求める交渉によって、価格が決まってくると語られます。親族の紐帯は二義的なものとなっているように見えます。しかし、さらに注意深い観察、インタビューによって、その価格決定に親族の紐帯が深く関わっていることを、パットという慣習の分析を通じて証明していきます。

漁民と代理店の間では、価格の交渉は行なわれず、代理店の決定した価格で売買が行なわれます。漁民たちは、この価格決定を「クワン」関係、すなわち、市場の外側の原理、社会関係に基づいて説明します。しかし、漁民と代理店の間には資本・情報の蓄積に圧倒的差があります。李さんは、（社会的関係、クワン関係ではなく）この差こそが一方的な価格の決定要因であるとさらなる観察を通じて論じていきます。

すなわち、漁民と商人とでは表舞台では自己目的追求の市場経済が演じられ、いわば舞台裏で社会の紐帯に基づく交換がされ、漁民と代理店とは、表舞台では社会関係に基づく伝統的な交換が演ぜられ、舞台裏では市場の原理が作動しているのです。

詳細なフィールドワークそして綿密な民族誌に基づきながら、李さんは、経済学、人類学の根幹の常識にチャレンジしていきます。

以上の論文内容の検討に基づき、本論文は博士（人間科学）の学位にふさわしいものと判定します。